

『雨のバスでいりゅう所で』

主 題 名：きまりがある理由
 内容項目：C 規則の尊重

教科書p.40～43

学習活動、主な発問、予想される児童の反応例	指導上の留意点、ICT機能の活用例
<p>事例をもとに、きまりが必要かどうかを選択する。</p> <p>○(事例のイラストをもとに)このきまりは必要ですか。 〈信号待ち〉 ・事故に遭ってしまうから必要。 〈混んでいる電車(バス)で、間隔を詰める〉 ・間隔を詰めないで、新しく乗ってくる人の邪魔になるかも。 ・邪魔になるけれど、きまりにするほどのことでもない。</p>	<p>* ICT活用 ①アンケート機能：アンケート機能を用いることで、一人一人のきまりについての価値観を引き出し、その後結果を共有することで、友達との考えのずれを交流し、教材への関心を高める。 ※目安：選択1分、アンケートをもとに交流4分</p>
<p>教材を読んで、話し合う。</p> <p>○よしさんがしたことはよいと思いますか。悪いと思いますか。また、どうしてそう考えましたか。 ・バス停には誰も並んでなくて、よしさんが先に並んだのだからいいと思う。 ・バス停ではないけど、先に来た人から乗るのがマナーだと思うからだめだと思う。 ・先に来た人が自分の順番を抜かされて嫌な気持ちになると思うからだめだと思う。</p> <p>◎よしさんが考えていたことと、お母さんやバスを待っている人の考えていることは、何が違っていたのでしょうか。 ・よしさんは自分のことしか考えていなかったけど、周りの人は他の人たちのことまで考えていた。 ・周囲の人を考えると勝手なことをしていたら、バス停で毎回けんかが起きてしまう。</p> <p>○きまりが書いてあるほうがまちがいないで過ごせるはずなのに、書いていないのはどうしてでしょう。 ・全部きまりを書いていたら大変だから。 ・きまりを書いてもそもそも読まない。 ・書いているかどうかよりも、一人一人がみんなのことを考えることが大切だから。</p>	<p>* ICT活用 ②効果音の活用：雨の状況を登場人物の心情に重ねて考えやすくするために、雨音とともに範読する。 * ICT活用 ③付箋機能：よしさんの行動について考えを可視化し共有できるようにするために、付箋機能を活用する(考えが変われば、新たな付箋を提出する)。 ※目安：色を選択して提出1分 *きまりの意義にせまるために、バス停にはよしさんが一番に並んだことやきまりは明示されていないことから、挿さぶり発問を投げかける。</p> <p>* ICT活用 ④画面一覧機能：多面的・多角的に考えられるようにするために、Yチャートを用いてよしさんと他の人との考えの違いを比較し、足りない考えに気づけるように促す。早くできた児童は画面を共有し、各自端末で、友達の見られるようにしておく。 ※目安：記述5分、閲覧2分</p> <p>*誰もが気持ちよく生活するうえで必要な考えに気づくために、導入での問いなどをもとに、身近な生活から、明示されていない他の事例を問い、それらを守る意義について考えるように促す。</p>
<p>本時の学習を、自分の生活にどのように生かすか考える。</p> <p>○今日の授業でわかったことやこれからの生活に生かしていきたいことはなんですか。 ・きまりはみんなが気持ちよく過ごすためにできていて、みんなのことを考えて行動することがきまりを守ることになる。</p>	<p>*授業をとらえて、自分なりに納得したことや考えたことを整理するために、自分の言葉でノートにまとめるように促す。</p>

*バス停における並び方については、バス会社などによってルール化されていることもあるので、留意が必要である。

ICT機能の活用

②範読での効果音の利用

雨の音の効果音を流すことによって、雨のときにバスを待っている気分共感しやすくする。こうすることで、よしさんがすぐにバスに乗りたかった気持ちにも共感しやすくなるだろう。本実践では、教師用端末にあらかじめ雨音の効果音を用意し、「雨が降っているときってどんな気持ちになる?」と雨のイメージと構えをつつてから範読を始めた。効果音のせいで範読が聞こえにくくならないように、効果音の大きさには注意する。

③付箋機能

賛否や一人一人の考えを可視化するために、付箋機能を活用する。ICTを用いることで、考えが変わったら、自分の手ですぐに意見を変えることができる。本実践ではロイロノートの付箋機能を活用し、よしさんの行動に対して、「よい」はピンク色、「悪い」は水色、「どちらともいえない」を黄色の付箋で提出するようにした。そして、話し合いの中で意見が変われば、再度付箋を提出し、変わった理由を話し合うことで価値理解や他者理解を促した。

④画面一覧機能

画面一覧機能のあるアプリ(ロイロノート、Google Jamboardなど)を活用すれば、各自が端末に書き込んだ考えを共有することができる。モニターに提示したり、各自が端末で確認したりすることで、友達の見られるように、ロイロノート内のシンキングツール「Yチャート」を用いた(図1)。シンキングツールを用いることで、よしさんと母親、また周りの人との考えの違いが明確になり、比較することをとおして、よしさんの足りない考えに気づけるように促す。書く活動は思考が整理され、じっくり考えることができる一方で時間が必要になるので、授業全体の時間に留意する。



図1 ロイロノートを活用したアンケート

板書例

雨のバスでいりゅう所で

よしさんのしたことはよい? 悪い?

きまりは必要?

信号待ちのイラスト

- ・じこ⇒必要
- ・命を落とすかもしれない。

電車(バス)内のイラスト

- ・つめないとじゃまになる。
- ・きまりにするほどでもない?

自分が早く乗りたい。
・順番にならなっていると知らなかった。

・おこっている。
・もやもやしている。
・先にならなっているんだ。
・勝手な子だな。

みんなのことを考えている

書いてないきまりがあるのは?

- ・書かなくてもあたりまえ。
- ・全部書くときまりだらけ。⇒大変。読まなくなる。
- ★一人一人が守ろうとすることが大切。

もしもおこっている人がいなくなったら…?

- ・さらにそれを周りで見ている人がまねをするかも。
- ・そうなるどバスでは毎回けんかになる。
- ・わりこみがOKになる!

児童の学習状況(活動)の評価

〔評価の視点〕

- ①きまりの大切さをさまざまに考え、明示されているかどうかに関わらず、きまりを守ろうとするよさについて、多面的・多角的に考えることができていないか。〔授業中の姿や発言、ワークシートの記述、ICT端末での記述〕
- ②みんなが気持ちよく過ごすために約束やきまりを守って行動しているかどうかについて、自分との関わりで考えることができていないか。〔授業中の姿や発言、ワークシートの記述、ICT端末での記述〕